

発行所 利根教育事務所
 発行人 角田 義行
 〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

利根・沼田の教育

学校教育係 各教科における「単元の課題づくり(設定)」について

1学期の学校訪問において、先生方と授業を振り返る中で、「単元(題材)の課題が明確になると、授業がスムーズに進みますよね。」という言葉いただきました。そこで今回は、小学校国語科を例に「つかむ過程」における「単元の課題づくり(設定)」について説明します。

「はばたく群馬の指導プランII」(国語科)より

【必要感のある言語活動】

※単元の課題の立て方
 ○どのような資質・能力を、どのような言語活動を通して身に付けさせるかを明確にする。

【 A B 】をして(～ができるように)、
 【 A → (1) 指導事項から 身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
 B → (2) 言語活動例を参考に 児童生徒の実態に合った言語活動を設定する。
 ※学習指導要領解説国語編 付録4「系統表」を参照

単元名「言葉よりすぐって俳句を作ろう」(小5、光村図書)

A→ 指導事項
 [知識・技能]
 (1) オ(語彙)・ク(表現の技法)
 [思考・判断・表現]
 B書くこと(1)オ(推敲)・カ(共有)

B→ 言語活動例
 (2) イ(俳句を作る活動)

ポイント

単元の指導事項や言語活動、単元の目標を具体化する。

授業者の思考の流れ・・・

①「感じたこと」「驚いたこと」を表すのに適切な言葉を探しながら俳句に表現してほしいな。
 ②作った俳句は子ども同士で読み合って感想を伝え合う経験を積ませたいな。初めての俳句作りなのでどのような活動が良いかな。
 ③作った俳句をもっとふさわしい表現に練り直すためにはどんな活動があると良いのかな。 など

イメージができれば

指導主事から

①日常生活の気付きや思いを十七音で表現することを通して、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができるようになる子どもの姿を目指しているのですね。
 ②クラスの実態から句会を開いてはどうですか？言葉の選び方や比喻などの表現の工夫、語順、表記の仕方について、感想や意見を交流させると、言葉の使い方に対する意識が高まりますね。
 ③ペアやグループなどで言葉や表現の工夫を伝えたり、質問し合ったりすることで、どうしてその表現にしたのか改めて考えたり、もっとふさわしい表現に整えたりして、言葉にこだわって表現することができそうですね。

ポイント

各教科の特質や子どもの実態等を踏まえ、目標の達成に向けて、単元を通して主体的に解決できる「単元の課題」を設定する。

時	学習活動
1	・俳句のきまりや表現の工夫に気付き、俳句を作るという言語活動を捉え、単元の課題をつかむ。 【単元の課題：必要感のある言語活動】
2	・自分が作りたい俳句の具体的な場面を決め、俳句を作る。
3	・自分の思いが伝わる俳句になるように、グループで話し合いをする。
4	・できあがった俳句を発表し合い、感想を伝え合う。

必要感のある言語活動を通した「単元の課題」の設定

【単元の課題】(例)
 十七音で日常の気付きや思いをぴったりした言葉で表現し、句会を開こう。

「単元の課題」の設定のポイントは
単元の目標を達成した子どもの姿を具体的にイメージする！
 「つかむ過程」では、導入を工夫し、教師と子どもたちのやりとりの中で、子どもの思いや気付きなどを整理して「単元の課題」にまとめましょう。

単元(題材)の課題が明確になっていると、児童生徒が単元(題材)の見通しがもて、より主体的に授業に取り組むようになります。「令和の『日本型学校教育』の構築を目指して(中教審答申)」で示された「子供一人一人を主語にした学校教育」の具現化の一つは、「つかむ(である)過程」における児童生徒と行う単元(題材)の課題づくりにあるのではないのでしょうか。

